
柑橘

朝平 夜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

柑橘

【Nコード】

N4228A

【作者名】

朝平 夜

【あらすじ】

柑橘。それは、私と彼の香り。私と彼の架け橋。私の依存。

甘酸っぱい香りがアナタは好き。私は甘い香りが好きなんだけど、アナタに合わせて香水は柑橘系。だって、振り向いてほしいの。少しでも。アナタに。

「千鶴」

ふわっと柑橘の香り。彼の愛用してる香水の匂いだと、私は瞬時に悟る。だから私は、彼専用の笑みを浮かべて、振り返った。

「遅いよ、啓介」

「ごめん、部活遅れてさ」

恋人同士みたいな会話が耳を擦る。今風な彼は、街中でも結構目立つ。だって、カッコいいんだから。でも残念ね、私はあなた達よりもっと昔から彼を知ってるのよ、と心の中で啓介に目をやる女達を笑ってやる。

オープンカフェで一息つく。すると、啓介のポケットから軽快なメロディ……。確か、先週発売されたばかりの新曲。さすが啓介、と何だか嬉しくなった。……

「……由香？は？無理だよ今からは」
ピタリ。

ジュースをストローでかき回していた私の手が止まった。…由香…！

「……ちよつと待って、……千鶴、あのさ……」

「わかってるって、行ってらっしゃい。可愛いカノジョ待たせちゃダメでしょ」

「……でも……」

「由香待ってるんでしょ？早く」

急かすように私。

啓介と由香は先月から付き合い始めた。…私と啓介はただの幼なじ

み。 たった少しの間に、濃い境界線が私たちを裂いた。

安心してたんだ。 だって啓介とはずっと一緒だったから。 幼稚園から高校まで。 啓介も私を好きなんだと思い込んでた。

滑稽な私をチラツと見やり、 由香の元へ行くことを決意した様子の啓介。

「もしもし由香？ やっぱ行く。 今どこ？」

携帯片手に喋りながら私に手を振ってくる。 だから私も笑顔で返す。 行っってらっしい、 啓介ー…。

柑橘の香り。

それは私と彼を結ぶ唯一の架け橋。

この香りでつなぎ止めたい。

だから今日も、私の香水は柑橘系。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4228a/>

柑橘

2010年10月10日02時04分発行